

様式第2号（第9条関係）

会議録

会議の名称	第3回ふじみ野市生きがい学習推進計画審議会 会議			
開催日時	令和4年11月8日（火） 開会時刻 10時 閉会時刻 11時40分			
開催場所	市役所本庁舎3階A301号室			
出席した者の氏名	役職名	氏名	役職名	氏名
		朴 淳香		岩城 英隆
	会長	大久保 昭男	副会長	神木 重浩
		塩野 悦子		石橋 裕
		村田 真人		大川 正
会議の議題	(1) 市民アンケートの決定について (2) 団体アンケートの決定について (3) 今後のスケジュールについて			
会議の公開又は非公開の別	公開・非公開			
傍聴人の数	0人			
会議の内容	別紙のとおり			
会議資料	資料1 市民アンケート調査票(赤字見え消し入り) 資料2 市民アンケート調査票 資料3 団体アンケートの実施方法について 資料4 団体アンケート調査票(施設利用団体) (赤字見え消し入り) 資料5 団体アンケート調査票(PTA・自治組織) (赤字見え消し入り) 資料6 第2期ふじみ野市生きがい学習推進計 画策定スケジュール			
事務局	市民活動推進部協働推進課			
議事の確定	確定年月日	令和4年12月5日		
	記名押印 又は署名	役職名 ふじみ野市生きがい計画推進計画審議会 会長 大久保 昭男 ※自署の場合は、押印不要です。		

別紙

発言の要旨

発言者	発言の要旨
事務局	1 開 会
大久保会長	2 挨拶 《会長挨拶》
大久保会長	3 議事 議題（１）市民アンケートの決定について、事務局からの説明をお願いします。
事務局	<p>資料１、資料２をご覧ください。それぞれ文字の修正が１点ずつあります。２ページ目の「生きがい学習とは」の部分、２段落目「市民一人ひとりが自分の意思に基づき」の部分の「意志」を「意思」に修正いたします。</p> <p>資料１は前回の審議会でご審議いただいたアンケートに赤字見え消しを加え、さらに１０月３１日に開催された生きがい学習推進委員会の会議での議論を反映しています。</p> <p>資料２は資料１の赤字見え消しを本文に反映したものです。詳細につきましては、委託業者から説明いたします。</p> <p>《調査票修正箇所等の説明》</p>
大久保会長	<p>資料１について、見え消しになっている部分の表現の確認をお願いします。</p> <p>「１ あなた自身のことについて」の部分で、ご意見はありませんか。</p> <p>《意見なし》</p> <p>「２ 生活について」ではいかがでしょうか。</p>
塩野委員	<p>「あなたの悩みや不安なこと」が削除候補になっているので、問１「日頃の生活の中で幸せや生きがいを感じるのはどんなことをしている時ですか」について、「悩み」を聞かないのであれば、「幸せ」も聞かなくてもいいのではないのでしょうか。</p>

大久保会長	<p>考えによらうによつては、生きがいをもつてゐることはある意味幸せな生活を送つてゐることもあるでしょう。他の委員は、この意見についていかがでしょうか。石橋委員、いかがでしょうか。</p>
石橋委員	<p>幸せ、幸福論は幅広い内容になってきます。抽象度がとても高い。「生きがい」の方がいいとは思ひます。概念の違いを感じました。</p>
岩城委員	<p>「やりがい」という言葉はどうでしょうか。やりがい＝生きがい。自分が満足するやりがいは他人をサポートすること。「やりがい」という言葉をどこかに入れるのはどうでしょうか。</p>
大久保会長	<p>「生きがい」という言葉も、「幸せ」という言葉も漠然としてゐます。</p>
塩野委員	<p>生活について聞かれるのであれば、「幸せ」は個人的な感覚なので、「生きがい」だけでいいのではないかと思ひました。アンケートに答える人は幸せをあなたに言う必要はないのかなと思ひました。</p>
大川委員	<p>私はあつてもいいと思ひてゐます。例えば、友達と会つていて、楽しいというの、生きがいと違つて、それは楽しみであり幸せである。今回のアンケートの趣旨を考えると、例えば今コロナであまりできませんが、ひとつの活動の中で人と楽しくやるこゝが幸せを感じる、そういうのを生かせる気がします。</p>
大久保会長	<p>生きがい学習についてのアンケートなので、生きがいを感じられる、という聞き方でいいのかなと受け止められます。</p>
事務局	<p>「幸せ」と「生きがい」という問いがひとつの設問に入つてしまつてゐる点もあります。</p>
村田委員	<p>生きがい学習に関する調査なので、今回は生きがいに関する設問として、「生きがい」だけでいいと思ひます。</p>
大久保会長	<p>事務局は、「生きがいを感じるのは」への修正をお願いしたいと思ひます。他によろしいでしょうか。</p>

大久保会長	「3 現在の生きがい学習」に進みたいと思います。設問の文言、相手に伝えやすいかなどについて、いかがでしょうか。
石橋委員	問4-(10) あなたが生きがい学習に取り組まなかった理由を教えてくださいという設問の「選択肢1」と「選択肢2」について。選択肢1は、以前取り組んでいたが新型コロナウイルス感染症の影響によって活動をやめた、選択肢2は、新型コロナウイルス感染症予防のため取り組まなかった。ある意味では、「選択肢1」の内容が「選択肢2」を含むことになり、今まで活動していた人が、感染症防止のために取り組まなかったとも読み取れる。「選択肢1」と「選択肢2」について継続性と新たに生きがい学習をやる人との区別をしているのだろうと思ったが、そのあたりの区別に混乱します。
大久保会長	確かにコロナウイルスの関係で、従来の学び方から大きく変容している部分は感じていると思われれます。ただ今のご意見はいかがでしょうか。
村田委員	「選択肢2」の冒頭に「取り組みたかったが」「始めたがったが」というような文言を文章の頭につければいいと思う。その違いをおそらく設問として設けたかったと思う。
大久保会長	そのあたり、庁内検討委員会ではいかがでしたか。
事務局	指摘はありませんでした。
大久保会長	今のご意見等を踏まえて聞く方向でよろしいでしょうか。
石橋委員	村田委員の意見を踏まえ、「やめた」と「取り組まなかった」の違いが分かりやすい表記にしたほうがいいのではないのでしょうか。
大久保会長	文言の修正については、訂正する方向で事務局に預けたいと思います。
大川委員	問4-(4) 生きがい学習をどのような場所や形態で、という設問の「場所」について。その前の設問の所で、あなたは生きがい学習をどこで行っていますか、とあります。空間的な場所を指

	<p>して、場所、空間的な意味合いが強い。「場所」がなくてもよいか、入れるのであれば「場」として入れるのはどうでしょうか。</p>
大久保会長	<p>問4-(3)ではどこで行っていますか、どこ＝場所。問4-(4)では場所や形態で行っていますか、となっています。場所というより、形態の意味合いが強いです。問4-(4)の「場所」は必要かという検討になります。</p>
岩城委員	<p>どこと場所は一緒。問4-(3)の設問に「場所」とはっきり言ってもいいのではないのでしょうか。</p>
朴委員	<p>私は「場」という言葉が入っている方がいいと思いました。「場」であれば「場」という概念があるように思います。オンラインであったり、規則的に集まる訳ではないけれども、学ぶ空間をメインとする「場」という概念を持っている人が一定程度います。ただ、「場」だけだとわかりにくい感じもするし、「形態」だけだと「形態」になってしまう。人が集まる、人と何かをやっていくイメージを含むのであれば「場」があったほうがいいと思います。</p>
大川委員	<p>私も「場や形態」の方がいいと思っています。</p>
大久保会長	<p>今、出されました意見を含めて、事務局で修正をお願いします。</p>
大久保会長	<p>「4 今後の生きがい学習について」に進みたいと思います。13ページの間6は、先ほどの説明にもあった通り、学び直しについて大項目を設けるのではなく、漠然と学び直しに興味があるかどうかを問う、掘り下げない形に修正しています。リカレント教育は一自治体で実施できる内容ではありません。国や県がどういう方向でやっていくのかで具体性が出てくると捉えられます。こういった点を踏まえて、ご意見ををお願いします。</p>
石橋委員	<p>問5-(4)あなたが今後取り組んでみたい生きがい学習がない理由の「選択肢16障がい者が取り組める生きがい学習がない」ですが、その他はすべて健常者を含めての設問になっています。「選択肢16」は障がい者しか答えられない。そこを知りたいというアンケートもあると思うが、かなりターゲットが絞られてし</p>

大久保委員	<p>まいます。「選択肢16」を必要とするのか、これからの生きがい学習を進めていく上で重要な設問なのか、という部分も含めての意見です。</p> <p>障がい者という限定的な捉え方で学びの機会がないという選択肢を作っています。「選択肢16」以外は自分を当てはめて考えられているが、「選択肢16」だけは障がい者を見て、または障がい者が自分で選ぶこともできます。</p>
塩野委員	<p>こういったアンケートにおいて、「障がい者」という言葉を文章の中に入れていても差し支えないのでしょうか。</p>
事務局	<p>庁内検討委員会には障がい福祉課長も出席しておりましたが、指摘等はありませんでした。</p>
岩城委員	<p>「選択肢16」はいらないと思います。もし仮に私が障がい者だったら、できないこともあり、そのほかの選択肢の中に包含されると思います。あえて障がい者という言葉を入れなくてもいいと思います。</p>
神木副会長	<p>障がい者の方でも、例えば、身近に活動する機会がない、または時間がないなどあると思う。興味のある講座に参加しようと思えば、障がいの程度によっては可能だと思います。</p> <p>あえて入れたままでもいいのではないかと思います。</p>
朴委員	<p>障がいを持つ方の学習の機会がない、支援があれば参加できるということになるのであれば、「障がいへの支援がない、プログラムへの参加に支援が必要」を含めた形での選択肢が必要になると思います。そういうニーズがあることを拾うための設問であるのであれば、「支援が必要である」ということを問う設問に変えた方がいいと思います。</p>
大久保会長	<p>自分が障がいを持つ身で考えると、自分を基準として、障がい者が取り組める生きがい学習の機会がないという選択肢を選べます。一般の人がこの「選択肢16」について選ぶことはそうは無いと思う。もちろん障がいを持っていなくても、障がい者問題に関わっている人は、障がいを持っている人の学ぶ機会はないよねと言えるけど、大多数はそういう判断ができるかわかりません。</p>

石橋委員	<p>障がい者という概念で悩ましいのは軽度から中度、重度、重複とかなり幅が広く、障がいの種類も幅広い。そのあたりでどう捉えるのか。もしかすると、障がいがある方に対する生きがい学習を市として知りたいこともあると思うが、その場合は、「障がいのある方におうかがいします」と設問を分けて設けた方がいいと思いました。</p>
塩野委員	<p>アンケートは、無作為に郵送されるので、障がいの方に当たるのは、ほんの一部しかないと思います。ここだけ障がい者に対しての設問が入っているのはおかしいと思います。石橋委員が発言していたように、障がい者の方に向けて別の項目を持たないとアンケートの意味がない。無作為に郵送する訳であって、ほんの何%の障がい者の方が受け取って、ここだけ自分にだけ当てはまって他の設問は関係のない設問になってしまうかもしれない。そうなるとその人にとって、アンケートの意味がなくなってしまう気がします。</p>
事務局	<p>設けた理由は、生きがい学習は障がいのあるなしに関わらず、年齢、性別に関わらずどなたでもやっていただけるものという大前提がありました。その中で、障がい者についての生涯学習というのが今回の国の基本方針でも謳われていたことから、「選択肢16」を加えた経緯があります。一度検討させていただきます。</p>
大川委員	<p>新たになったリカレント教育の設問ですが、私自身も不勉強だったせいで「学び直し」と聞くと、一旦リタイヤした人がもう一回大学に入り直して、昔好きだった文学の勉強をするといったイメージを持っていました。</p> <p>アンケートを受け取る人がどれだけリカレント教育という言葉に理解があるのかわからないが、いろいろ調べるとリカレント教育は職業に必要な能力の向上を図るための前提にあり、これがないとリカレント教育と呼ばない。この学び直し、リカレント教育の説明文に「職業に必要な能力の向上を図るため」という文言が入っていますが、ここにアンダーラインを引けませんか。ここに着目しないと、下の選択肢を選べないと思います。</p>
大久保会長	<p>「リカレント」と国が取り組んでいる「リスキリング」。要するに会社に行っている人がもうワンランクスキルアップするために学ぶ機会を「リスキリング」といっています。</p>

	<p>何が違うかという、「リカレント」は自分がスキルを学びたいという時に、学校に行かないといけない。そういう担保ができるかという自治体はできない。大学とかと協定を結ぶ必要があります。例えば、ふじみ野市の市民の中で仕事を一定程度休んで、大学に行って学び直しをする制度を作りましたとなればできるが、なかなかそういう制度は作れないと思います。県や国が主体となって仕組みを作っていく必要があります。</p> <p>この場合の「リカレント」という文言が、市民の方たちに理解されるかどうか。一般的に「学び直し」と言っているので、それに興味あるかどうか。私は前回の16ページのように取り上げることはできないだろうと思っています。「学び直し」がどれだけ理解されているのかを含めて、聞いてみることも大事だと思います。</p>
大川委員	<p>この形でやるのであれば、「職業の向上を図るため」という部分をちゃんと読み取っていただかないと「学び直し」という言葉は漠然としていて、職業に直結しなくても「学び直し」になってしまう。そこと混同しないようにという意味で、「職業の向上を図るため」の部分^を太字にする、アンダーラインを引く^{なり}のことがあってもいい。</p>
村田委員	<p>対象となる方が、働いている人が前提となるのでしょうか。</p>
事務局	<p>このアンケートは18歳以上の市民の方が対象なので、働いている方もいれば、いない方もいます。</p>
村田委員	<p>このリカレント教育の対象となる方は、働いている方が対象となるのでしょうか。設問C「あなたの職業を教えてください」の仕事はしていない、学生の方も入ってくるのでしょうか。</p>
事務局	<p>仕事を今していない人に対して、その人の意思等もありますが、再就職に役立てることができるという部分で、フォローできると考えています。回答者が学生の場合でも、今現在はわからない、興味はないという回答になるかもしれませんが、学生でも自分が働くようになったら、やってみたいなと思えばそういう回答がいただけるのではないかと思います。</p>
村田委員	<p>であれば、「職業に必要な能力の向上」がキーポイントとなりま</p>

<p>大久保会長</p>	<p>す。そこがわかるように、大きくするなり下線を引くなりをした方がいいと私も思います。</p> <p>今回の修正は、深く取り組まないという前提と捉えています。リカレント教育が生涯学習の中で大きくなっているの、ふじみ野市の市民がリカレント教育に対する理解度、自分がそういうことをやってみたいかという意識的な部分を探るのであれば、こういう漠然とした設問がいいと思われます。</p> <p>日本でリカレント教育が進まなかった背景に制度の難しさがあります。昭和40年代から取り組んでいるが、欧米と比べても進んでこなかったのは、やはり学び直しという制度的な担保がないためにできなかったと思われます。ヨーロッパ諸国では、そこが担保されているが、日本ではそういう制度がなかった。言葉だけがずっとあり、ここにきて、もう一度見直されている背景があります。企業のリスキリングを国が財政支援しており、そのくらい力を入れています。そういうことをしていかないとグローバルな社会で対応できる人材が育たないと思われます</p> <p>リカレント教育の重要性を我々も認識しないといけないし、市民の人たちに知っていただくのも大事。市として担保できないことを聞いても、計画に盛り込めるのならいいが、そうでないならば深く探る必要はないというのが私の考えです</p>
<p>大川委員</p>	<p>大久保会長がお話ししたとように、リカレント教育に関しては市としてできることはそれほどない、なぜこの設問なのかという今後のことを考えて、どういうことを考えているのかを知る一助程度なので、この内容を実施するとすれば、この程度の簡潔な内容でいいと思われます。ただ「リカレント教育」という文言を正確に伝える必要があると思われます。</p>
<p>大久保会長</p>	<p>「リカレント教育」がどういうものであるのか、こういうことがリカレントなのねと、すっとんと落ちるような説明が必要です。</p>
<p>塩野委員</p>	<p>順番（説明文の位置）を入れ替えればいいと思われます。選択肢の前に説明を入れた方がわかりやすいと思う。</p>
<p>事務局</p>	<p>修正します。</p>
<p>朴委員</p>	<p>この設問に対して、異質な印象があります。なくてもいいのか</p>

	<p>もしれないし、もし残すのであれば、この程度なのかなと思います。学び直しの説明を上を持ってきて、わかりやすくするのは良いと思います。ただ、回答者からすれば、異質的な印象はあるだろうなと思います。</p>
大久保会長	<p>今までの意見を踏まえていただいて、仮に順番を入れ替えるにしても、リカレント教育がどういうものであるのか、市民に対してどういうものであるのか浸透を図る意味もあるので、文言訂正については事務局に検討をお願いします。</p>
大川委員	<p>問5－(3)の設問文について。前回の会議で会長が言っていた修正が反映されていないように思います。</p>
事務局	<p>修正します。</p>
大川委員	<p>問5－(3)の選択肢について。削除されている「選択肢4」に掲示板があってもいいと思いました。「選択肢5」の地域の回覧板、掲示板などに入れておいてもいいのでは。私も散歩などで時々掲示板を見て情報を得ています。</p>
大久保会長	<p>ただ今のご意見について、事務局で検討してください。</p>
大久保会長	<p>「5 オンライン学習について」に入ります。 特に無いようでしたら、17ページ「7 地域活動について」この項では特に修正はありませんので、次に進みます。</p>
大川委員	<p>問9－(1)の「選択肢1. 趣味のための学習活動に関する指導・助言」とありますが、文化的な活動に関しては「趣味」という言葉だけになってしまい、例えば、古文書を読むなどは趣味とは言えない、もう少し教養という言葉に類する言葉が必要だと思います。「趣味・教養に関すること」と修正してもらいたいです。</p>
大久保会長	<p>特に問題は無いようでしたら、そのように修正したいと思います。 「8 ふじみ野市の取組について」ですが、これは新たに入った設問となります。この設問について、事務局から説明をお願いします。</p>

事務局	<p>前回の審議会の中で、今現在の計画の評価、市民の皆さまからどう思われているのかを踏まえて、今後どうしたらいいのかを聞いた方がいいという意見があり、設問を加えました。現計画には施策の柱が6本あり、網掛けになっている部分が施策のタイトル、箇条書きになっている部分は、柱の中にある細かい施策をまとめたものとなります。</p>
大久保会長	<p>現行の計画の進捗度というところをきちんと分析して、プラスマイナスの部分を見極めながら新たな計画に生かすということでしょうか。こういう形で行きたいということです。</p>
朴委員	<p>内容ではなくて調査用紙の設定ですが、満足が1で不満が5。集計するときに満足の数値が大きい方が集計しやすいのかなというのがあるのかもしれませんが、パッと見た人は、数値が大きい方を満足と捉えるのではないのでしょうか。順番を1～5ではじめるのであれば、不満から始めるのか、あるいは5～1にするのか、検討をしてもらいたい。</p>
大久保会長	<p>事務局で検討をお願いします。</p>
大久保会長	<p>削除候補について、削除する方向でいいか審議いただきます。4ページのHとI、5ページの間2、8ページの間4－(6)と間4－(7)は削除する方向です。削除する方向でよろしいでしょうか。</p>
委員一同	<p>《異議なし》</p>
大久保会長	<p>それでは議題2に移りたいと思います。議題1で検討した項目も議題2でも関わってきますので、それについてご意見をいただきたいと思います。</p> <p>議題2 団体アンケートの決定について、事務局より説明をお願いします。</p>
事務局 委託業者	<p>《資料3を用い、団体アンケートの実施方法について説明》 《調査票修正箇所等の説明》</p>
大久保会長	<p>これから質疑に入りたいと思います。特に3ページの文言修正が検討事項となります。PTAでは、3ページの「貴団体のこと</p>

	<p>ついてお答えください」の部分すべてなくし、問1で貴団体についてお聞かせくださいと整理をしています。</p>
村田委員	<p>質問ではないのですが、市民アンケートも同様ですが、「すべての人」と「すべての方」が混在しているので、統一した方がいいです。</p>
事務局	<p>統一します。</p>
大久保会長	<p>問9は、先ほどの修正したものを載せることになります。</p>
石橋委員	<p>資料4の2ページの貴団体のところの④の平均年齢。「選択肢1」の10歳未満はあり得るのでしょうか。</p>
事務局	<p>小学生低学年、未就学児を対象とした団体の平均年齢を想定しています。「団体を構成する主な年齢層」と修正します。</p>
朴委員	<p>回答方法が調査票またはインターネットになっていて、数としたら少ないかもしれないが、どちらにも回答してしまう場合、それを洗い出す仕組みはありますか。</p>
事務局	<p>可能性としてはあると思います。ただし、市の他の調査では、2回回答したケースがなかったということから、特に対策はしません。</p>
朴委員	<p>数としては少ないかもしれないが、無くはないと思いました。そこは想定済みのところもあるのでしょうか。</p>
大久保会長	<p>それほど数がないということから、今回はそういう前提で進めています。</p>
大久保会長	<p>施設利用団体、PTA・自治組織に関しては、この案で行きたいと思います。</p>
事務局	<p>これからWeb回答フォーマットを見ていただきます。</p>
大久保会長	<p>赤い1/7の数字はなんですか。</p>

委託業者	<p>このフォーマットでは、進捗についてインジゲーターの表示ができないため、全体の7項目のうちの1項目目という形で、進捗の目安として設けています。</p> <p>前回指摘をいただいた、設問番号とのずれは解消されています。また、自由記述部分ですが、1,000字は確実に入ります。</p>
塩野委員	<p>あてはまるものすべてを選択してくださいの場合、選択しなくても次にいけるのですね。</p>
委託業者	<p>行くことができます。上限設定しかできないためです。</p>
塩野委員	<p>再開するときはID・PASSを入れないとできないようになっていますが、わざわざID・PASSを入れて再開しようと思うか。中断のままにして、最初からやるのもありですか。途中段階の回答の扱いはどうなっているのか。</p>
事務局	<p>いろいろなケースでテストをして、確認したいと思います。</p>
朴委員	<p>「生きがい学習」の説明について、読み終わったらボタンを押さないといけないようだが、もう少し丁寧な説明がないと、この段階で脱落してしまう人が出てしまうのでは。</p>
委託業者	<p>MAの回答フォームを使用や説明を加える等、わかりやすく工夫します。</p>
大久保会長	<p>アンケートの最終版、電子回答フォームの確認をしました。今まで出された意見等を踏まえて微調整を事務局に一任する形でのろしいでしょうか。</p>
委員一同	<p>《異議なし》</p>
大久保会長	<p>事務局に一任させていただきます。</p>
大久保会長	<p>最後に「議題3 今後のスケジュール」について、事務局から説明をお願いします。</p>
事務局	<p>《資料6を用いて説明》</p>

大久保会長	日程について説明がありましたが、委員からご質問がありましたら挙手の上、ご発言をお願いします。 《質疑なし》
大久保会長	それでは本日の議事は以上となります。本日の会議を持ちまして、令和4年度に予定している会議は終了となります。3回にわたり丁寧な審議をいただき、ありがとうございました。